

市内中小企業景況調査結果（令和元年7月～令和元年9月）

前期に比し悪化、来期も同様に推移するものと予想

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第2四半期（令和元年7月～令和元年9月）の調査結果を報告します。

- 調査時点

令和元年8月15日

- 調査対象時期

令和元年7月～9月期状況、令和元年10～12月期見通し

- 調査回答企業数

36社：建設業6社、製造業5社、卸売業8社、小売業8社、サービス業9社（回収率72%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（平成31年4月～令和元年6月期：以下同じ）では業種によりバラツキがあり全体としては動きの鈍いものとなっていたが、今期（令和元年7月～9月期：以下同じ）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では悪化している。

先行きについては、ほぼ横ばいで推移し悪化傾向は続くものと予想している。業種別にみると、サービス業では好転するものの、他業種では悪化のまま推移するものとみている。

- 今期の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期と比較して11.3ポイントの低下となり、D Iでは $\Delta 33.3$ となりマイナス幅が拡大している。

業種別の業況をみると、卸売業では25.0ポイント上昇したものの、D Iでは $\Delta 12.5$ とマイナス域にとどまっている。製造業では変化ないものの、D Iでは $\Delta 60.0$ と大幅なマイナス超が続いている。サービス業では11.1ポイントと低下し、D Iでは $\Delta 11.1$ とマイナス域に入っている。小売業では29.2ポイント低下しD Iでは $\Delta 62.5$ と大幅なマイナス超となっている。建設業では33.3ポイント低下し、D Iでは $\Delta 33.3$ の悪化超となっている。

〔売 上〕

全産業で見ると前期と比較して14.9ポイント低下し、D Iでも $\Delta 22.2$ とマイナス幅が拡大している

業種別にみると、製造業では20.0ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 60.0$ と大幅なマイナス超となっている。卸売業でも12.5ポイント上昇したものの、D Iでは $\Delta 12.5$ とマイナス域での推移が続いている。サービス業では13.9ポイント低下しているが、D Iでは11.1とプラス域で推移している。小売業では15.3ポイントの低下となり、D Iでは $\Delta 37.5$ となっている。建設業では61.9ポイントと大幅な低下となり、D Iでも $\Delta 33.3$ とマイナス域に転じている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期と比較して6.8ポイントと小幅ながら低下し、D Iでは $\Delta 36.1$ とマイナス幅が拡大している。

業種別にみると、卸売業では25.0ポイント上昇したものの、D Iでは $\Delta 25.0$ とマイナス域で推移している。サービス業では変化なく、D Iでも ± 0.0 を維持している。小売業では18.1ポイント低下しD Iでは $\Delta 62.5$ と悪化超が続いている。同様に製造業では20.0ポイント、建設業では21.4ポイント低下し、D Iでは夫々 $\Delta 60.0$ 、 $\Delta 50.0$ と悪化のまま推移している。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期と比較して、1.7ポイントと僅かながら低下し、D Iでは $\Delta 16.7$ とほぼ横ばいで推移している。

業種別にみると、卸売業では28.6ポイント上昇し、D Iでも ± 0.0 まで戻している。製造業でも20.0ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 20.0$ と引き続き悪化のまま推移している。小売業でも8.3ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 25.0$ とマイナス域での推移となっている。サービス業では16.7ポイント低下しているものの、D Iでは ± 0.0 にとどまっている。建設業は35.7ポイントと大幅に低下し、D Iでは $\Delta 50.0$ まで悪化している。1

●来期(令和元年10~12月期)の見通し(前年同期比)

全産業合計の業況D Iは今期と比較して1.9ポイントと小幅ながら上昇するものの、D Iでは $\Delta 31.4$ と引き続きマイナス域での横ばいが続くものとみている。

業種別にみると、小売業では12.5ポイント上昇するものの、D Iでは $\Delta 50.0$ と悪化超のまま推移する見通し。サービス業では11.1ポイント上昇し、D Iでは ± 0.0 まで戻す見通し。建設業と製造業では変化ないものの、D Iでは、建設業 $\Delta 33.3$ 、製造業 $\Delta 60.0$ と悪化のまま推移するものとみている。卸売業では12.5ポイント低下し、D Iでは $\Delta 25.0$ と悪化するものとみている。

〔売 上〕

全産業で見ると、今期と比較して9.2ポイント低下し、D Iでは $\Delta 31.4$ とマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、建設業、製造業、小売業では変化なく、D Iでは、建設業 $\Delta 33.3$ 、製造業 $\Delta 60.0$ 、小売業 $\Delta 37.5$ と夫々悪化のまま推移するものとみている。サービス業では11.1ポイント低下し、D Iでは ± 0.0 となる見込み。卸売業では25.0ポイント低下し、D Iでも $\Delta 37.5$ とマイナス幅が拡大するものとみている。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して3.9ポイント低下し、D Iでは△40.0とマイナス幅が拡大する見通し。

業種別にみると、小売業では12.5ポイント上昇するものの、D Iでは△50.0と悪化超が続くものとみている。建設業と卸売業では変化ないものの、D Iでは、建設業△50.0、卸売業△25.0とマイナス域での推移が続くものとみている。サービス業では12.5ポイント低下し、D Iでは△12.5とマイナス域となる見込み。製造業では20.0ポイント低下し、D Iでも△80.0とマイナス幅が拡大する見込みとなっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して6.2ポイント低下し、D Iでは△22.9とマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、サービス業と卸売業では変化なく、D Iではともに±0.0で推移するものとみている。建設業でも変化ないものの、D Iでは△50.0と悪化超のまま推移するものとみている。小売業では12.5ポイント低下し、D Iでは△37.5まで悪化する見通し。製造業でも20.0ポイント低下し、D Iでは△40.0まで悪化するものとみている。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期は30.6%の実績となり、前期(14.6%)と比較するとかなり活発化しており、前年同期(30年7～9月期：23.3%)と比較しても活発となっている。業種別で見ると、建設業ではかなり活発に行われたが、卸売業では沈静化している。来期については全体で25.0%と今期と比較するとやや沈静化するものとみている。

●経営上の問題点

建設業では、引き続き「材料価格の上昇」が1位となり、2位には前回3位の「民間需要の停滞」がはいっている。3位は引き続き「材料の入手難」となっている。製造業では、1位と2位は前回と変化なく、「需要の停滞」が1位、「原材料価格の上昇」が2位となっている。3位には、前回の「製品ニーズへの対応」とともに「大企業の進出による競争の激化」がはいっている。卸売業では、前回2位の「仕入単価の上昇」が1位となり、前回1位の「需要の停滞」は2位となっている。3位は変化なく「大企業の進出による競争の激化」となっている。小売業では、前回3位の「大型店・中型店の進出による競争の激化」が1位となり、前回1位の「購買力の他地域への流出」は2位となっている。3位には前回2位の「消費者ニーズの変化への対応」と圏外から「店舗の狭隘・老朽化」がはいっている。サービス業では前回3位の「人件費の増加」が1位となっており、2位は変化なく「従業員の確保難」となっている。3位には前回1位の「需要の停滞」と圏外から「大企業の進出による競争の激化」がはいっている。

業 種 別 D I 値 表 令 和 元 年 7 ~ 9 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全産業	36	△22.0	△33.3	△31.4	△7.3	△22.2	△31.4	△29.3	△36.1	△40.0	△15.0	△16.7	△22.9	△11.1
建設業	6	0.0	△33.3	△33.3	28.6	△33.3	△33.3	△28.6	△50.0	△50.0	△14.3	△50.0	△50.0	16.7
製造業	5	△60.0	△60.0	△60.0	△80.0	△60.0	△60.0	△40.0	△60.0	△80.0	△40.0	△20.0	△40.0	△60.0
卸売業	8	△37.5	△12.5	△25.0	△25.0	△12.5	△37.5	△50.0	△25.0	△25.0	△28.6	0.0	0.0	12.5
小売業	8	△33.3	△62.5	△50.0	△22.2	△37.5	△37.5	△44.4	△62.5	△50.0	△33.3	△25.0	△37.5	△25.0
サービス業	9	0.0	△11.1	0.0	25.0	11.1	0.0	0.0	0.0	△12.5	16.7	0.0	0.0	△11.1

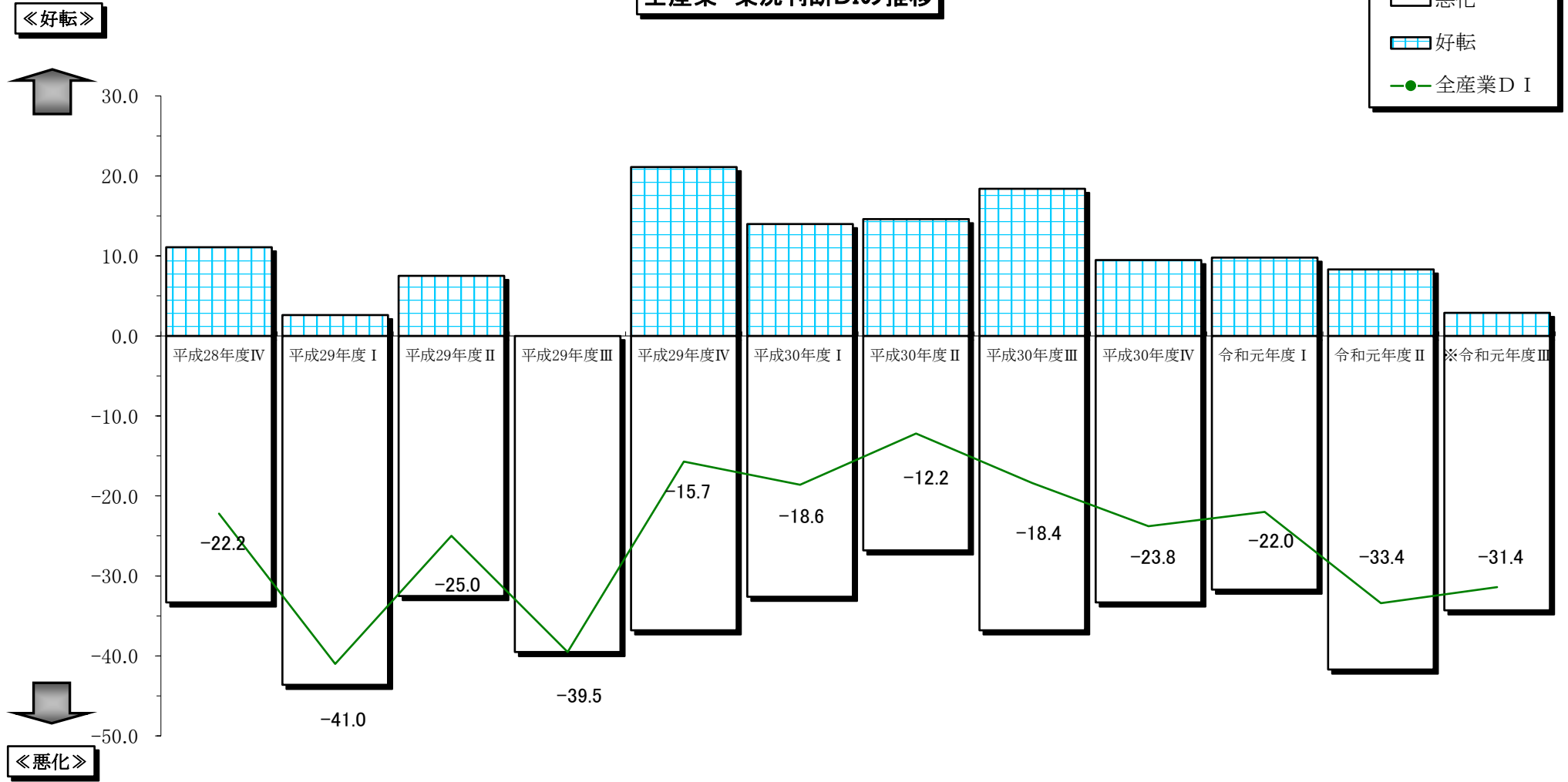
- ① 前年同期(平成30年4月～6月)と比較した前期(令和元年4月～6月)の状況
 ② 前年同期(平成30年7月～9月)と比較した今期(令和元年7月～9月)の状況
 ③ 前年同期(平成30年10月～12月)と比較した来期(令和元年10月～12月)の見通し

直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	材料価格の上昇	民間需要の停滞	材料の入手難
製造業	需要の停滞	原材料価格の上昇	大企業の進出による競争の激化／製品ニーズの変化への対応
卸売業	仕入単価の上昇	需要の停滞	大企業の進出による競争の激化
小売業	大型店・中型店の進出による競争の激化	購買力の他地域への流出	消費者ニーズの変化への対応／店舗の狭隘・老朽化
サービス業	人件費の増加	従業員の確保難	大企業の進出による競争の激化／需要の停滞

設備投資を今期実施した 30.6 %
 設備投資を来期計画している 25.0 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成30年10～12月）と比較した来期（令和元年10～12月）の見通し